

国語 第5学年 好きな詩のよさを伝えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

目的をもって詩を読み、選んだ理由が伝わる紹介を付けて詩集を組む。好きという感想を、作品のどの言葉から感じたかに結び付ける。単元の終わりに残すのは、詩集の目次案、作品の題名と出典、選んだ理由の紹介文。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)ア	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

単元の目標

詩の比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にすることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。詩の感想を共有して、自分の考えを広げることができる。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①詩の比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。〔知識及び技能〕(1)ク〕	①「書くこと」において、相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「読むこと」において、詩を読んだ感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（書①、読①）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○詩集のテーマと読む相手を決める。複数の詩を読んで選んだ理由を記す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○紹介文と目次を考える。読み合って選び方や紹介を見直す。	思①・②（選んだ材料・交流記録）



本時の案

本時の目標：相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にすることができる。感想を共有し、読み手による感じ方の違いを確かめることができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」 【めあて】目的をもって詩を読み、選んだ理由が伝わる紹介を付けて詩集を組む。 〈予想される児童の反応〉 ・景色を感じる言葉が共通している。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」 紹介文と目次を考える。読み合って選び方や紹介を見直す。 詩集の目次案、作品の題名と出典、選んだ理由の紹介文。自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 紹介したい詩の感想を伝え合い、同じ詩でも読み手によって着目する言葉が違うことを確かめ、紹介する理由を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・景色を感じる言葉が共通している。 ・読むと元気になる感じが違う作品にもある。 ・友達の選び方を聞いて組合せを変えたいくなった。	図書館の利用可能な詩集を手元で読み、題名・作者・掲載本と選んだ理由を記録する。配布物は自作の紹介を中心にし、引用が必要な場合は授業と権利の条件を教師が確認する。 想定するつまずき：既成の詩を無断で複製して配布する、題名の共通点だけで選ぶ。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思①（選んだ詩と紹介理由の記録）・思②（感想の交流と見直した記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の選び方を聞いて組合せを変えたいくなった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、

本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

つまづきとして、既成の詩を無断で複製して配布する、題名の共通点だけで選ぶ。この場合は、図書館の利用可能な詩集を手元で読み、題名・作者・掲載本と選んだ理由を記録する。配布物は自作の紹介を中心にし、引用が必要な場合は授業と権利の条件を教師が確認する。おおむね満足できる状況は、相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

詩集の目次案、作品の題名と出典、選んだ理由の紹介文。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」215行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

